

優秀賞

## 心の壁

神奈川県立横須賀高等学校 2年 堀 愛泉

私は中学生の時、母との間に壁があった。小学生の頃まではたくさん話をしたり、一緒に出掛けたり仲が良かった。しかし、私が中学生の時、干渉される事が嫌いになった。これによって自分一人でやりたいという気持ちが強くなった。一方母の中の私はまだまだ幼く、面倒を見なければならぬ子どもだった。私は母と距離を置きたくて壁を作った。それからほとんど話さなくなった。

そんな中夏休みに、近くにある祖母の家に一人で遊びに行った。その日は今まで見たことがない写真をたくさん見せてもらった。その中には母が学生の頃の写真があった。その写真を見て祖母が

「あなたのお母さんは反抗期のとき大変だったのよ」

と懐かしそうに言った。私はそれを聞いてすぐには信じられなかった。と言うのは、母が楽しそうに祖母と話す姿をよく見るし、祖母が骨折したときは毎日家までご飯を届けに行っていたからである。だから母と祖母は昔から仲が良かったと勝手に思っていた。そんな過去があったなんて想像もしていなかった。けれど確かに昔の写真を見ると祖母と一緒に写っている時は笑顔が少ない気がした。それに友人との写真の方が多かった。私は祖母にこの当時は寂しかったのか聞いてみると

「確かに寂しかったけれど今となつては良い思い出よ。それにとても優しい自慢の娘よ」

と教えてくれた。

私は祖母の話を聞いて、母と祖母の関係を素敵で羨ましいと思った。そして、私もそんな関係を母と築けたら良いなと思った。それから私は少しずつ、また母と話し始めた。そして高校生の今、母との間に壁はもう無い。今日あった出来事を話したり、一緒に買い物に出掛けたりする。今考えると、母は私の気持ちを汲み取って心の準備が出来るのを待ってくれていたのだと思う。私はそんな母が大好きだ。